

キャンベル大佐、第374空輸航空団司令官に就任 *Col. Campbell assumes command of the 374th AW*

June 22, 2020

374th Airlift Wing Public Affairs

横田基地発—6月22日、横田基地で第374空輸航空団指揮権継承式が行われ、アンドリュー・J・キャンベル大佐が、オーティス・C・ジョーンズ大佐から同航空団の指揮権を受け継いだ。

式典の主率は、在日米軍司令官兼第5空軍司令官ケビン・B・シュナイダー中将が務めた。

式典の中でシュナイダー中将は、「横田は特に重要な使命、運用即応力、忍耐のある空兵を誇っている。過去2年間に、横田の兵士たちは2018年のインドネシアの地震・津波災害支援などの管内の運用を支援しながら、15のパートナー国と国際的な軍事演習を20回以上実施し、同盟とパートナーシップを強化した」と述べた。



キャンベル大佐は、これまでにアフガニスタン・バグラム基地第455航空遠征航空団副司令官、アメリカ欧州軍司令部ポリシーならびに能力開発本部戦略部門副部長、また横田基地の第36空輸中隊司令を歴任し、これから第374空輸航空団を率いるための経歴を持つ。

キャンベル大佐は就任挨拶の中で、“団結”は、日本語で連帯感と仲間意識を表す言葉であることに触れ、個々の行動がより大きなコミュニティにどのように影響するかを一人一人が考える必要があると述べた。

「経験から言えば、横田を常に特別にしてきたのは、団結心だ。我々のコミュニティは、軍人、その家族、空軍の米民間人と日本人従業員という多様なチームで構成されている。第374空輸航空団のメンバーをいかに誇り高く思っているかを言い表したい。これまでそして今後共に従事していく任務においては、太平洋地域全体の安全と平和そして自由に向けて我々の同盟国と共有する団結心で、我々第374空輸航空団の準備態勢と発展を強化していく」とキャンベル大佐は述べた。